

# 2017 年度経済委員会提言書「中部圏 5.0 の提唱」要約

## ■ 伝えたいこと

- ・政府が提唱する Society5.0 は、「狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の次に現れる社会であり、サイバー空間の積極的な利活用を通じて、新しい価値やサービスが次々と創出され、人々に豊かさをもたらす人間中心の社会」とされる。
- ・Society5.0 を中部圏に当てはめた場合の将来像を検討したところ、「中部圏の新社会像はこれまでの社会の滑らかな延長線上に描くことはできない」との結論に至った。
- ・Society5.0 が指し示す「人々に豊かさをもたらす人間中心の社会」を中部圏で実現するためには、過去の延長線上ではない努力や能動的な行動が求められる。

	現実空間とサイバー空間の相互駆動	経済社会の運営コストの格段の低下	生活者の幸福度の向上						
<b>第 1 部</b>  <b>Society5.0 とは何か</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膨大な現実空間の情報（自然現象、経済社会現象等のリアルデータ）がサイバー空間に転写されて、情報処理メカニズムが駆動される。</li> <li>・逆にサイバー空間で処理された膨大な情報が現実空間にフィードバックされて、現実空間が駆動される。</li> <li>・現実空間とサイバー空間の相互駆動が、情報社会（Society4.0）とは比べものにならないほど広範に一般化する。</li> <li>・コミュニケーションは、B2C、P2P、M2M、T2T（モノ対モノ）の形で行われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実空間とサイバー空間の相互駆動や、他の分野の技術革新により、経済社会の運営コストが格段に低下する。</li> <li>・インフラ管理運用技術の進展により、関連コストが大幅に低下する。</li> <li>・サイバー空間における限界費用は限りなくゼロに近づく。</li> <li>・シェアリングエコノミーの一般化により「所有」から「共有」への変化が進み、資産や資源が効率的に使用され、無駄が少なくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの難問が解決され、生活者の幸福度が高まるとともに、新たな職業が生まれ既存の職業に置き換わる。</li> <li>・人生の選択の自由度が高まり、自己実現の機会も多くなり、多様性が尊重される多文化共生社会となっている。</li> </ul>						
<b>第 2 部</b>  <b>Society5.0 に関する中部圏のポテンシャル</b>	<p><b>1. 中部圏に研究集積がある分野</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エレクトロニクス（音声認識、イメージセンサ等）</li> <li>・デザイン・生産（ロボティクス、カーボンナノチューブ）</li> <li>・移動・交通（運転支援、車車間通信等）</li> </ul> <p><b>2. 中部圏に研究集積がない分野</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信、AI・データ分析</li> </ul> <p>（注）青：ポテンシャルが比較的高い、赤：ポテンシャルは高くない</p>	<p><b>1. サーキュラーエコノミー⇒ポテンシャルは比較的高い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみリサイクル率：中部圏 21.8%、全国（20.4%）</li> <li>・ISO14001 適合企業数の対全国シェア：20.1%、事業所シェア（14.3%）</li> </ul> <p><b>2. シェアリングエコノミー⇒ポテンシャルは高くない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社設立数、情報通信業企業数の対全国シェア 中部圏はともに 9%台、東京圏が 50%程度と圧倒的</li> </ul> <p><b>3. 社会資本⇒インフラの老朽化が進む。渋滞損失時間が多い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健全な」インフラの比率：橋梁 33～44%、トンネル 1～4%、道路 29～66%</li> <li>・渋滞損失時間：70,118 万人時間/年（全国シェア 18.4%） 長野（15 位）、岐阜（11 位）、静岡（6 位）、愛知（2 位）、三重（21 位）</li> </ul>	<p><b>1. 難問解決、フロンティア開拓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中部圏に研究集積がある分野</li> <li>・農業・漁業・食糧生産・食品（天然物化学）、生活・文化・教育（感性工学）、エネルギー（核融合）、地球環境・資源（水圏、地圏）</li> <li>○中部圏に研究集積がない分野</li> <li>・健康・医学・生理学・生物学、社会・都市・インフラ、航空宇宙</li> </ul> <p><b>2. 幸福度および幸福度を左右する要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本総合研究所の幸福度ランキング⇒中部圏は総じて順位が高い</li> <li>・長野（4 位）、岐阜（13 位）、静岡（10 位）、愛知（9 位）、三重（23 位）</li> </ul> <p><b>3. 社会の多様性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人労働者：中部圏 43 万人（全国シェア 18%）</li> <li>・女性労働力率：中部圏 51.8%、全国 50.0%、女性管理職比率は低い</li> </ul>						
<b>第 3 部</b>  <b>中部圏の Society5.0 の姿と課題</b>	<table border="1"> <tr> <td><b>全体</b></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイバー技術が可能とする国家中枢機能の分散配置</li> <li>・先進的モデルとなる生産、物流のスマート化</li> <li>・ものづくりのサプライチェーンのスマート化</li> <li>・ものづくりのサービス化</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td><b>経済圏</b></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業構造の新陳代謝</li> <li>・サービス産業の生産性向上</li> <li>・基礎自治体の行政事務の生産性向上</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td><b>コミュニティ</b></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の移動手段の充実</li> <li>・買い物の利便性の向上</li> <li>・テレワークによる家族や集落の構造変化</li> </ul> </td> </tr> </table>	<b>全体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイバー技術が可能とする国家中枢機能の分散配置</li> <li>・先進的モデルとなる生産、物流のスマート化</li> <li>・ものづくりのサプライチェーンのスマート化</li> <li>・ものづくりのサービス化</li> </ul>	<b>経済圏</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業構造の新陳代謝</li> <li>・サービス産業の生産性向上</li> <li>・基礎自治体の行政事務の生産性向上</li> </ul>	<b>コミュニティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の移動手段の充実</li> <li>・買い物の利便性の向上</li> <li>・テレワークによる家族や集落の構造変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキュラーエコノミーの先進地域</li> <li>・費用対効果の大きい社会インフラの建設・運用・メンテナンスの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難問解決、フロンティア開拓に挑戦する先端的研究開発拠点の立地</li> <li>・産業界と大学の関係の緊密化</li> <li>・多文化共生の実現、多様性の許容</li> </ul>
<b>全体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイバー技術が可能とする国家中枢機能の分散配置</li> <li>・先進的モデルとなる生産、物流のスマート化</li> <li>・ものづくりのサプライチェーンのスマート化</li> <li>・ものづくりのサービス化</li> </ul>								
<b>経済圏</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業構造の新陳代謝</li> <li>・サービス産業の生産性向上</li> <li>・基礎自治体の行政事務の生産性向上</li> </ul>								
<b>コミュニティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の移動手段の充実</li> <li>・買い物の利便性の向上</li> <li>・テレワークによる家族や集落の構造変化</li> </ul>								
<b>第 4 部</b>  <b>中部圏 5.0 の実現に必要な努力</b>	<p>○付加価値の発生場所が中部圏外へ移ることに対応する努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュール化の進展によるすり合わせ技術の意義の低下に対応する努力</li> <li>・自動車の付加価値の発生場所が中部圏外へ移ることに対応する努力</li> <li>・地場の中小企業による大変化に適応する努力</li> <li>・ソフトウェア関連人材の確保・育成の努力</li> </ul>	<p>○蓄積された膨大なインフラを効率的に管理・運営する努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会インフラを効率的に管理・更新・運営する努力</li> <li>・インフラの点検・メンテナンスを効率化する努力</li> <li>・インフラの更新工事を効率化する努力</li> </ul>	<p>○多様な人々の活躍を促進する努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在必要とされている能力とは別の能力を持つ人材を役立てる努力</li> <li>・女性の活躍を一層促進し「男女平等」を実現する努力</li> <li>・外国の高度人材を呼び込む努力</li> </ul>						